

墨田区（報道）

令和元年11月19日

～たくさんの秋の実りに収穫の喜びを体感！～

保育園の園児たちが、大きな大きな柿を収穫！

本日11月19日(火)、区立寺島保育園（東向島一丁目23番10号・桂本圭子・園長）で、5歳児クラスの園児と先生が園内の柿の木に実った柿、約100個を収穫した。

これは、園児たちに、都会ではめったに体験することができない「柿もぎ」を体験してもらい、自然に慣れ親しむと共に収穫する喜びを感じてもらうことが目的。園内にある1本の柿の木には、たわわに実った立派な柿が鮮やかな橙色に熟し、まさに食べ頃になったこの日、園児たちが待ちに待った「柿もぎ」を開催することとなった。

午前10時、期待に胸を膨らませた園児たちが柿の木（1本 高さ約5m）の前に集合。地上から約1.5mの高さの枝に実った柿は、園児が手を伸ばしても届かないため保育士に支えられながら、一人ずつ順番に台に登り、ハサミを器用に使って柿の実を収穫していった。両手を使い回ると実を回して収穫する園児や上手にハサミを使って収穫する園児、「がんばれーがんばれー」と応援する園児など、「柿もぎ」は大いに盛り上がった。収穫した柿は、「収穫祭」と題して、全園児に振る舞われた。



<寺島保育園の取組について>

区立寺島保育園の園内には、園が設立された昭和56年に植えられたぶどうの木や昭和60年頃に植樹された大きな柿の木がある。職員が肥料をやり愛情を持って大切に育てていることから、毎年たくさんの果実を実らせている。この他にも、園内の数か所に設置してあるプランターでは、夏はピーマンやオクラ、ゴーヤ、秋はさつまいもといった季節の野菜も育てている。同園では、これらの果物と野菜を園児たちが収穫することで、自然に慣れ親しみ、収穫する喜びを感じてもらう“味覚狩り”を毎年の恒例行事としている。

《問合せ》寺島保育園 3614-0311